

研修名 保育内容研修1（運動あそび）

平成27年6月23日（火）13:30～16:00

講演 「関係性を育む運動あそび」

講師 片山 喜章 氏



1 講演要旨

1) スーパーじゃんけん列車

- ・じゃんけん列車は勝った人だけが楽しめるが、勝ち負けにこだわらず、皆で楽しめるようにしたのがスーパーじゃんけん列車。
- ・じゃんけんで負けた人（1人）だけが後ろにまわり、あとは解散。
- ・決まったルールの中だからこそ、葛藤する経験ができる。



2) とんとんぐっばー（2～5人）

- ・とんとん（手を合わせる）→グーかパーを出す
→とんとん→いえーい（あいこのとき）/泣く（違うものを出したとき）
- ・タイミングを合わせる事が大切。

3) いす取り形式でいろいろあれこれふれあい～鬼ごっこまで

- ・本来のいす取りゲームは勝敗で排除されていく。保育者は1番に負けてしまった子の存在に気付いていないことが多い。
- ・内側を向くようにいすを並べる→ハイタッチをしながら歩く→曲が止まったら座る→いすに座れなかった子どもは友だちの膝に座る
- ・バリエーション…2つ横にいすを並べて鬼ごっこ形式にする。膝に座られた子の隣の子は逃げて、次に座るところを探しに行く。
- ・3、4歳児の場合は全員分いすがあっても楽しめる。

4) フープで2人組いろいろ（引越し、列車、ルールの中に交替、鬼ごっこ）

- ・友だちと手をつないで、フープからフープへ引越しする。
- ・手をつながずに進み、引越しする。
- ・友だちと反対方向に進み、合図で相手を探してフープの中に入る。等

5) 仲間集めと形づくり

- ・まずは小グループで達成感を味わわせる。
- ・もめることも大切である。もめることで話し合いをすることができる。

6) フルーツバスケットの見直し

- ・ 3人一組になり、それぞれ果物を決める。3人一組でバスケット、3種類の果物が揃うように移動する。
- ・ フープを使用するとき…ただ保育者が配るだけでなく、子どもに取りに来させる。その時の子どもの動きに注目する。
- ・ 揃うのが遅かったグループには、何か事情があるはずである。保育者は1番の子どもに注目しがちであるが、順位は重要ではない。

7) じゃんけん宝取り

- ・ 3人一組で一列になる→2つカプラを持ち、先頭の子ども同士でじゃんけん→勝ったらカプラをもらう/負けたら相手に1つ渡し、残りを後ろの子どもに渡して列の後ろにまわる
- ・ カプラがなくなったら保育者に1つもらいに行くことができる。

8) まとめ

- ・ 保育者の思いつきでルールを変えないこと。繰り返すことが大切。
- ・ 子どもに力をつけること（子どもだけで遊びを進められるようになること）で保育者は子どもの動きややりとりなどを見守ることができる。
- ・ できた経験もできなかった経験も同じくらい大切なことである。
- ・ 力を合わせること/力を比べることを色々な人とできるようにすることが大切。
- ・ 子どもたちは体を動かしながら、心が体の倍くらい動いている。
- ・ 遊びの人数、場所の広さ、鬼の数などは保育者が配慮する。調整することが保育者の役割である。

2 感想

自分の園でも様々な運動遊びや集団遊びを取り入れているが、まずは幼児に遊びのルールを共通理解させることに気を取られ、ゲーム本来の面白さをクラスのみinnで共有できる内容を展開できていなかったと反省した。どうしても順位が1番の幼児や保育者が意図する動きができた幼児の姿を取り上げ、評価してしまいがちである。勝ち負けやできる・できないにかかわらず、一人一人に焦点を当て、その中で子どもがどのようなことを感じているか、友だちとのやりとりを通して楽しさをどのように感じているかを見守り、次の手立てを計画的に取り入れることができる保育者でありたいと思った。今回研修に参加させていただき、同じ遊びでも、保育者の少しの工夫で、友だちとのつながりが生まれたり葛藤が出てきたりすることが分かった。子どもたちにどのようなことを経験させたいのか、どんな心情を味わってほしいのかねらいを明確にし、遊びを進めていきたい。

(記録 南丹市立八木中央幼児学園 高坂 奈津子)